

NPOによる被災者支援活動について

認定NPO法人レスキューストックヤード

災害時のNPOの活動

技術系NPO

主に家屋保全を中心に
した活動

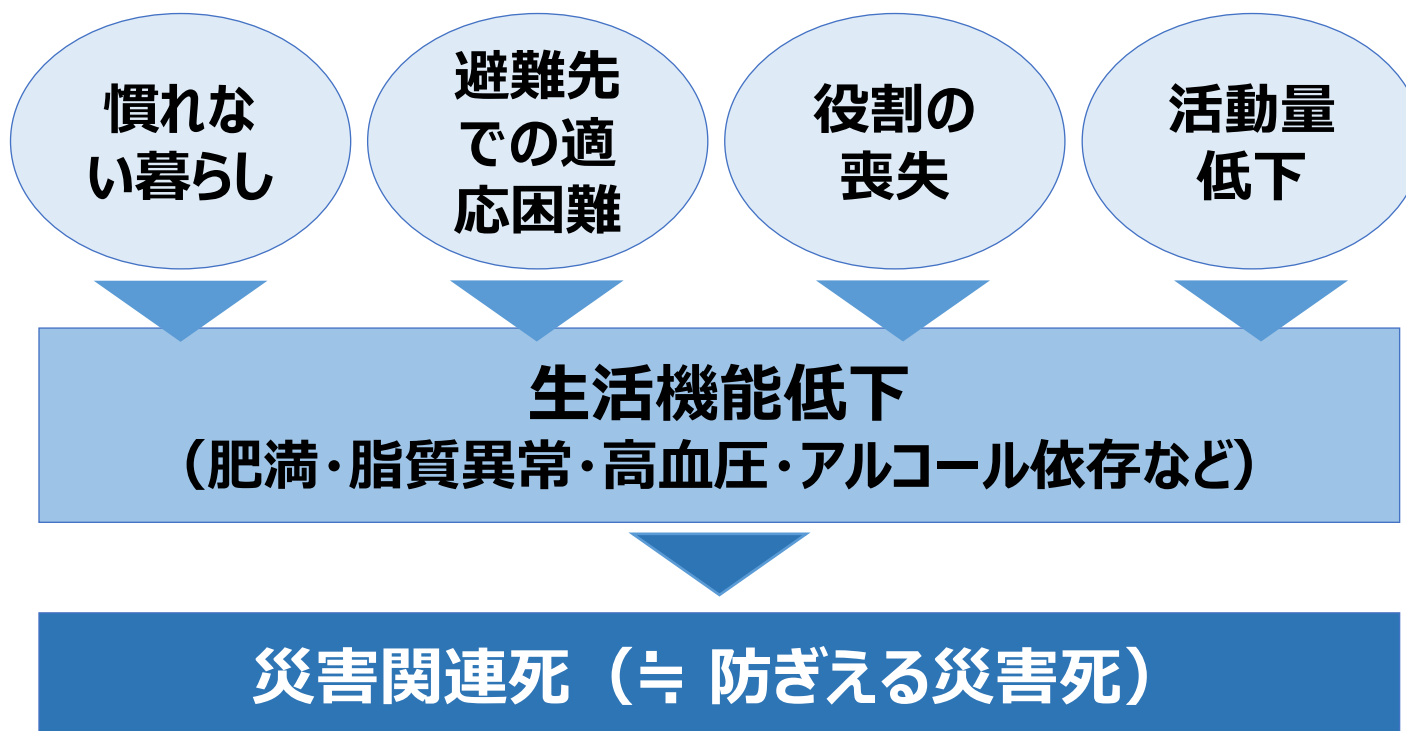


生活支援系NPO

主に暮らし向きや活力の維持・
向上を中心にした活動



生活機能低下と災害関連死



Aさんの事例

日頃使っている
公的支援

介護保険×
生活保護○

地域包括
スタッフ訪問

玄関先で声かけ
「大丈夫」

Aさん
(83歳・男性)

NPOの支援

玄関声かけ

目で確認

✓食べる・出す・寝る・移動
など

話を聞いて確認

- ✓心身の健康状態
- ✓介護や介助が必要な家族の有無
- ✓家族・親類等の機能
- ✓罹災証明書の申請有無
- ✓ボランティアの有無
- ✓今後の再建プラン
- ✓今一番不安なことなど

Aさんの支援プラン

- ・老朽化・地震で傷んだ床の修繕
- ・倒れた家具等の片づけ
- ・ボイラー修繕の助言、業者へのつなぎ
→技術系NPO、災害VC
- ・罹災証明書の申請支援、介護保険利用の促し、家族への説明・同意、日常的な見守り等→生活支援系NPO(地元担当スタッフがいたら一緒に訪問)
情報は常に行政・社協と共有

災害VCからの紹介
市保健医療福祉調整本部からの派遣
自治会等独自ルートで開拓など



2023年5月5日石川県珠洲市震度6強 罹災証明書の申請が進まなかった理由

- 罹災証明書の存在を知らない
- 申請に必要な書類を取り寄せられない(役所に取りに行くかダウンロード)
- 自分の家の被害が申請対象になるのか分からない
- 申請後のメリットが分からないので意識が向かない
- 申請書類を全て準備できない(写真撮影・現像・家の見取り図の添付必要)
- 市役所への移動手段がない、疲れてそれどころじゃない
- 一連のことを頼める家族や身近な人がいない
- 一連のことが良く分からず既に修繕や片づけを済ませてしまった

＜震災から4カ月後の状況＞
被災者生活再建支援金申請率7割
応急修理制度申請率4割

被災者の困りごとへの理解

表面化している
困りごと

<例>

様々な不安
不特定多数との
なれない共同生活

相談の見えやすい・見える部分
(わかりやすいが、誤解や
理解不足な認識も多い)

潜在化している
困りごと

病気や障害のこと
家族間のこと
仕事やお金のこと
避難所で受けた
差別や偏見

見えにくい、見えない部分
(わかりにくい
困りごとの背後にある
個人的・社会的な課題や
価値観を理解することが
支援の基本となる)

「事例でみる生活困窮者」一般社団法人社会的包摂サポートセンター編集をもとに作成

現場の課題

- ①指定避難所外避難者の増加に伴う、当面の「住まい」「食事」「移動手段」の確保
- ②業者が本修繕に入るまでの家屋保全・仮修繕
- ③各種公的支援制度申請に向けた伴走支援
- ④関係者同士の目線合わせ
 - ・生活課題として何を見るか？
 - ・家屋保全・仮修繕の範囲
 - ・各種支援制度の内容、手続き方法の理解
 - ・専門外のニーズに直面した場合のつなぎ先 など
- ⑤支援者がそれぞれ持つ要支援世帯の突合、分析、継続的に介入が必要な世帯の特定ができる場の構築